

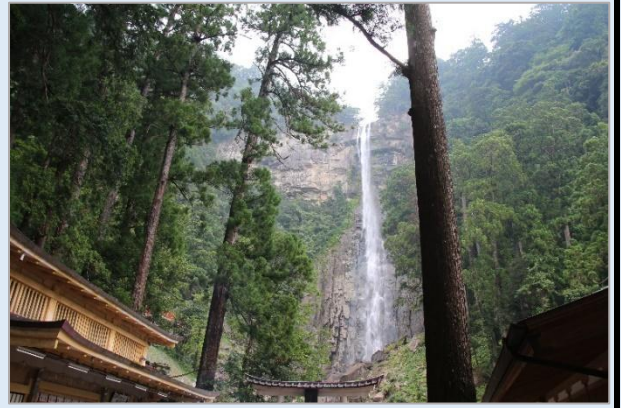
研修医新聞

2015年8月31日 第58号

うだるような暑さの中、約8時間かけて東京から阿田和まで鈍行列車でやってきてから、早くも一ヶ月が経ちました。一步足を伸ばせば翠色にきらめく海があり、日に日に色が変わる田園風景があり、見上げればたくさんの星がまたたいている紀南での生活は、毎日が新鮮で穏やかでした。なにより、地域の方や、病院職員の方、患者さんや消防署の方は誰もがみんな穏やかで、三重県に縁もゆかりもない私ですが、故郷のような温かみを感じました。実習の面では、まさかの虫垂炎で緊急手術を紀南病院で行い、院長先生はじめ多大なご迷惑をお掛けした上に、回診では毎日患者さんから「先生元気？」と聞かれる始末でした。それでも救急外来では大学では見られないような一般的な疾患の対応をしたり、地域の中高生とおしゃべりしたり、救急車に乗ったりと地域実習ならではの経験もでき、有意義な一ヶ月でした。全ての出逢いに感謝しつつ、思い出いっぱい、体は虫垂分だけ軽く、今度は急行で東京まで帰ろうと思います。

東京大学医学部附属病院 松永 有紀





鉱山資料館、トロッコ、湯ノ口温泉

8月はどうやら移ろいの時期であるようで、朝夕の涼味を覚え、台風が到来し、丸山千枚田が色めき(3回行きました)、花火が打ち上がる一ヶ月でした。こういった時期に他所で生活をするといった経験は中々なく、テンションが上がって波浪警報が出る中、波の様子を観察しにいくといった所謂「やっではいけないこと」もついでしてしまいました。



こちらでの生活は、廊下ですれ違った人には挨拶をし、道端で出会った人ととりとめのない雑談をする、というこれまでほとんど経験してこなかった温かい人間関係を感じるものでした。患者さんの中にも、病院に来る途中に「服が汚れていたのを見て、知らない人が服を貸してくれた」といった話が飛び出て来る方もいて、しみじみ良い地域だな、こういう所に定住するのもいいなあと感じました。

(ご飯も美味しいし！)



お世話になった奥野先生、塩崎先生、千田先生、清水様をはじめ、出会った全ての方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

三重大学医学部附属病院
土田 新太郎

丸山千枚田保存会会長 喜田様と

